

団体名	福山市	所 属	環境啓発課	他団体等との連携	エコでえ〜こと実行委員会
連絡先	(084)954-2619				

取組事例名	ふくやまエコトライアスロン	取組期間	平成25年度～
--------------	---------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 楽しみながらエコにトライ

市民が環境にやさしい取組について年間を通して参加できるように、環境意識の醸成につながる取組項目ごとにポイントを発行し、貯まったポイントに応じて賞品を選択して応募する仕組みを構築した。市民が環境問題を考える機会を多く提供し、楽しみながら参加することで、環境意識の醸成を図る。

取組の背景 ～ 環境意識の醸成

マイバッグ持参運動として「エコでえ〜ことキャンペーン」を平成19年から毎年計6年間実施し、期間中、市民の環境に対する意識も向上し、マイバッグ持参率も高くなる傾向にあるが、キャンペーン期間（約2～4ヶ月）が終了すると市民の関心も薄れていった実態がある。

取組のねらい ～ 環境にやさしいライフスタイルの定着を

循環型社会・自然共生社会・低炭素社会の構築に向け、市民・事業者・行政が協働して、環境にやさしい取組の実践や、環境学習会などへの参加をすることにより、環境にやさしいライフスタイルの定着を一層推進し、環境問題の解決に向けた取組とする。

取組の具体的内容 ～ エコにトライして賞品をゲットしよう

エコでえ〜こと実行委員会が認定する環境にやさしい取組について、年間を通して参加することで市民の環境意識の醸成を図ることを目的に実施する。

個人だけでなく家族で取り組み、項目ごとにポイントを発行し、獲得ポイントに応じて、賞品を選択し応募する。

1 今年度実施期間

平成26年6月1日～平成27年3月31日

2 取組内容

(1) 紙ごみの拠点回収

エコショップ協議会及び各環境センター（行政）が実施する紙ごみの拠点回収に協力

1行動 5ポイント

(2) 緑のカーテンフォトコンテスト

緑のカーテンの育成、設置状況の写真を応募

応募者全員 30ポイント 優秀作品には別に賞品を進呈

(3) 家庭の省エネ診断

家庭での光熱水費（2ヶ月分）と省エネ取組項目表を記入し応募

応募者全員 夏・冬各25ポイント

(4) おもちゃ病院プラザ

月1回リサイクルプラザに開院されるおもちゃ病院プラザへ、壊れたおもちゃを持参

全員 5ポイント

(5) その他

「エコでえ〜こと実行委員会」が認定した環境出前講座、施設見学、リサイクル体験講座などへの参加

1行動 5ポイント

3 商品

(1) 5ポイント～50ポイントの獲得により、ポイント数に応じて5万円分の旅行ギフト券などの商品（抽選）への応募が可能

(2) 20ポイントで福山市立動物園等の施設が利用可能



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 分かりづらさ・面倒くさい印象

昨年度（取組初年度）の課題・問題

（実施期間 平成25年9月1日～平成26年3月31日）

- 1 過去6年間実施したマイバッグ持参運動「エコでえ～ことキャンペーン」のように毎日取り組める対象行動に比べ、「ふくやまエコトライアスロン」では、実施内容が日々取り組める内容ではないため、参加対象者が限られる。
- 2 実施内容の決定に時間を要したため市民への周知に時間が不足した。
- 3 初年度実施内容が複雑であったため、市民の理解が得にくかった。
例) 節電コースとして「電気の使用量のお知らせ」の貼付を求める内容と、家庭でのエネルギー使用量を把握する「家庭の省エネ診断」「環境家計簿」など似た内容があったため、参加者が理解しがたかった など
- 4 対象行動(エコアクション)を事業者にも協力いただき、広く環境問題を考える場と、仕組みを構築する必要がある。

創意工夫した点 ～ 内容を簡素化(分かりやすさ、取り組みやすさ、応募しやすさ)

今年度取組において工夫した点

- 1 エネルギー使用量の把握については「家庭の省エネ診断」に統一し、取り組みやすさ、応募しやすさに重点を置き周知を行っている。
- 2 応募ポイントについて、昨年度は100ポイントを上限としたが、今年度は上限を50ポイントとしたことや、20ポイントで賞品（協賛賞）の応募または施設利用券として選択できることとしたことなどにより、多くの方が応募しやすくなるよう変更した。
- 3 応募用紙をA3からA4に変更し、見やすさ・取り組みやすさを心がけた。
- 4 事業者（スーパー）などに応募用紙の設置を依頼し、市民の目に触れる機会を増やした。
- 5 広報誌、テレビ、ラジオ、新聞などを活用し積極的なPRを実施した。

取組の成果（効果） ～ ごみの減量と地球温暖化防止

1 主な成果

行政の実施する施策を市民が理解し、行動していただく機会となった。

2 ごみの削減等

期間中の紙ごみの拠点回収量 280.8t

電力使用量の削減（前年同月比）約8.5万kwh、二酸化炭素削減量に換算すると約63.1t

3 期間中の市民の行動数（ポイント発行数）

19,868件

今後の展開 ～ 協働の視点・エコアクションの充実

対象行動（エコアクション）への参加者を、環境にやさしい取組を実施する団体・事業者にも拡充し、市民・事業者・行政の協働の視点で進めていく必要がある。

また、「エコでえ～こと実行委員会」の組織強化を図ることで団体、事業者の協力体制を確立していく必要がある。

他団体へのアドバイス ～ 団体・事業者との目的の共有

本来の目的は、ポイント発行ではなく、市民が環境問題に関心と理解を深め、行動することである。年間を通して楽しみながら環境問題を考える機会を増やし、行動できる仕組みづくりが重要である。

しかし、市民への周知・普及活動を行政だけで行うには限界があり、団体・事業者と目的を共有し、協力体制の構築が必要である。